
ヒヨコの詩集

EARTH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒヨコの詩集

【Nコード】

N0156N

【作者名】

EARTH

【あらすじ】

はじめましてEARTHっていいます!!

おもった事を詩にしています。

未熟者ですがアドバイスとかコメントくれると嬉しいです!

この詩集はヤミナベ的なものです、作者が思いついたものをキャビアだろうがナメコだろうが放り込みます、胃薬を持ってどうぞ

みなさんに私の詩が少しでも届きますように(笑)

進化過程

間違ってるのに丸ふったドリル
自分への嘘にも丸ふった

間違っていないのにバツ書いたドリル
ほんとの思いもバツ書いた

なんなんだろうこの世界は
黙っていれば許されるのか
じゃあ黙っていればいいじゃないか
今日も今日も明日も楽しよ楽勝

この考えが正しいのならば
この私が普通というならば
この世界は普通は
殺すことなのだろうか
諦めることなのだろうか

間違ったことを否定してみた
さらに

自分への叫びをも否定した

間違ってるのに肯定してみた
もちろん
誤魔化したのも肯定した

なんなんだろうこの人間は
多数派が正当化されるのか

ならばながいものにや巻かれるの原理
かくして隠して隠し通せ嘘なら嘘で突き通せ

この命が正しいならば
この私が狂ってるならば
この人間の正しいは狂ってるは
伝えることなのだろうか
思うことなのだろうか

私の正義他の正義たくさんあるけど
だから正解なんてないだろう

もし私が狂ってるならば
狂ってるままでもいい
世界の正義が悪というならば
悪のままでもいいさ

言わなければ変わらない
伝えなければ変わらない

ドライブしようよ

哀しみの曲がかかってる
ヘッドホン放り投げて

電気をつけない私の部屋はまるで心とシンクロしてた

空を見ようよ

澄みきった青空を

きつと包んでくれる

傷ついた私の翼を

哀しみの物語つづる

文庫本投げ棄てて

何も云わないディスプレイまるでケータイが孤独を告げるように

海へいこうよ

きつと洗ってくれる

我慢していた涙を

大丈夫、まだ立てる

私はとても小さいけど

だからまだ飛べるはず

大丈夫、まだ遅くない

世界はとても大きいけど

だからまだ飛べるはず

大丈夫

私は今ここに在る

ドライブしようよ（後書き）

今日近所を散歩してたときとってもキレイな青空をみたのと、
使い捨てカメラをげんぞうしたんですけど、その中に沖縄の海の写
真がありました！
その影響です

ここまで読んでくれてありがとうございます！

夢見つけ隊

ヒマだヒマだと言ってるけど

やらなきゃなことは山ほどあるんです

じゃあ

なんでヒマだというかというところ

やりたいことが全然ないからです

だからといって何が変わるわけでもないからです

今なにもやりたくないほど堕ちてるけど

今にももう死んでしまいそうになってるけど

いまだ死んでない僕たちはきつと何か

いつのまにか何か

僕が僕を生かす意味

見つけたのだろう

嫌だ嫌だと言ってるけど

じゃあなににならないかなんて決まってるじゃないんです

さらに

欲しい欲しいとせがむけど

てにいれたとたん宝石はただの石ころなんです

しかし欲しいものは欲しくわかってて止まらないんです

今日明確な道はまだ見つけられてはないけど

今日あったこと生きることで精一杯だけど

いまだたしかに進んでいる理由は多分
なにかしら多分

僕が僕にいだく夢を
持っているからだろう

いつも変わらずそこにいるなら
いつも変わらなければならぬから
進んで戻って飛んで掘って
道草しながらスキップしよう
きっと自分がみつかるから

夢見つけ隊（後書き）

まあいつも考えてた事ですね
やっと詞にしてみた感じです。

どう感じたか教えてくれると嬉しいです!!

ここまで読んでくれてありがとうございます

24人×テルテル坊主〃晴れ

初めての遠足前日にやった占い
みんなで飛ばした24色の靴
みんなうらがえしだった

大変だ大変だと先生也大騒ぎ
みんなで作ったティッシュの塊
24つのテルテルぼうず

全員の顔は違うけど
たしかに今の想いは同じだろ
今雨はザンザ力意地悪だけど
明日は反省してくれるだろう

初めての遠足全日にやった占い
みんなで飛ばした24色の靴
今度はみんなおもてだった

よかったよかったと先生も大喜びみんなで笑った笑顔の塊
24つのテルテルぼうず

全員の道は違うけど
たしかに今想いは同じだろ
今お日様は風邪引いちゃってるけど
テルテルぼうずが薬届けるだろう

24人×テルテル坊主〓晴れ（後書き）

あんまり関係ない詩です。ただテルテル坊主をわけもなく作ったときの詩です

24人は私のクラスの人数です

ここまで読んでくれてありがとうございました

t o m o r r o w (明日)

朝の光をそつと体で感じて
今日私は走り出す
新しい未来めざして

朝の光にそつと包まれて
今日私は走り出す
新しいゴールめざして

昨日の暗闇も
明日の見えない道も
ほら今日の光が
照らし出してくれるんだ

春風にそつと包まれて
今日私は飛び立つ
新しい夢追いかけて

春風をそつと背中に感じて
今日私は飛び立つ
新しい今日追いかけて

昨日の迷いも
明日の不安も
ほら今日の風が
吹き飛ばしてくれるんだ

さあ行こう

優しさをもって

さあ行こう

独りじゃないから

ありがとう

ここにいるみんなに

バイバイ

またここで逢おうね

さあいこう

勇気をもって

さあいこう

手ぶらじゃないから

ありがとう

すべてのものに

バイバイ

またここで笑い会おう

t o m o r r o w (明日) (後書き)

卒業式の曲用に作詞したものの中の一つです。

結局別の詩をもう一度創りましたが、これは結構お気に入りの一品です。

ここまで読んでくれてありがとうございます。

和差算

異質なものを取り除いて

足りないものを継ぎ足して揃ったものを比べてた

自分なんてものない僕達はさしてもなしても変わらない

なのに続ける僕達の

そして止めない人類の

終わりは何処へ向かうのか一体何を求めていたのか

確かめるのには遅すぎた昼下がり

異質なことを望む人

平等と個性の狭間で

平和を望んだ人類は

自我と世間の狭間で

ああ僕達は矛盾している

とってつけた言い訳で

取り上げてやった個性を捨てる

見ているだけの僕達は

取り上げる個性もなかったのだろう

山のレールの走るひと

理屈と感情の狭間で

明日に希望を持っている人今日と明日の狭間で

ああそろそろ自分で歩こうか

和差算（後書き）

和差算とは、

A君B君C君合わせて三千二十円ありますA君から二十円引くと全員同じ金額です。A君はいくら持つてゐるでしょう？
って問題です。

二十円多いAの「異質」を抜いて3で割ります。

そんなのを和差算っていいいます。

それを考えて、何か現代社会風味に仕上げました。

ここまで読んでくれてありがとうございます＊ ＊

七色の種

七色の種植えたんだ
いつか夢にも出てきた七色の種
特別なこの種を
僕は大切に僕に植えた

七色の種植えたんだ
いつかの絵本にも出てきた七色の種
大切なその種を
僕は世界の真ん中に植えた
君にも届けよう
虹の種を
僕は届けよう
虹の種を

君も育ててよ
虹の種を
僕も育てよう
虹の種を

そして君と僕との大きな溝に
七色の橋をかけよう

いつかの思い出
赤オレンジ紫
黄色でまた蒼う

そうして君と僕との大きな溝は

七色に染まっただ

僕と君との秘密の物語

七色の種（後書き）

虹を最近見たんですけど、そこで思い付きました！！
あまり意味はありません…

ここまで読んでくれてありがとうございます
3

おんぼろ車と小さな子猫とほんのちょっとLOVE

大きな期待乗つけられ

おんぼろ車は今日も行く

悲鳴をあげてるタイヤさえ

無視して無理して走り出す

何ために走っているのか

知らない車は今日も行く

さびれきつてるボディさえ

無視して無理して走り出す

なにも知らないおんぼろ車は

なにも知らない子猫と会った

なにも知らないはずなのに

ふたりの涙は暖かい

大きな障害乗つけられ

小さな子猫は今日も行く

悲鳴をあげてる足なんて

無視して無理して歩き出す

なんで存在してるのか

知らない子猫は今日も行く

さびれきつてる心さえ

無視して無理して歩き出す

なにも知らない小さな子猫は

なにも知らないおんぼろ車と会った

なにも知らないはずなのに
ふたりの笑顔は暖かい

おんぼろ車と小さな子猫とほんのちょっとLOVE（後書き）

とくに意味もなく友達からもらったキーワード「車」と「子猫」で書きました。
のっけます！

ここまで読んでくれてありがとうございます

3

ドリーマー

あまりに自分を求めすぎて置いていかれたドリーマー先へと進む友
が早い

それとも自分は留まっているのか

小さなころのがくぶちに飾った夢の絵

今じゃもうラクガキになる進んでいるはず自分が遅いか
それとも友が急いでいるのか

戻りもしないが

進みもしない

最悪はすでにマンネリ化

下を見ては励まされるのも上を見ては急かされるのももう疲れてし
まった

もう飽きてしまった

もうやめてしまった

置いていかれたドリーマー棄ててしまったドリーマー

ドリーマー（後書き）

塾の話なんですけど私は真ん中のクラスなんです。

で、そこでできた友達もみんな上のクラスに上がってっちゃんです…

その気もちを書かせていただきました！！

ここまで読んでくれてありがとうございました♡<

絵本

自分の心を具現化したくて思い付いたら早かった
百均に駆け込み買ってきたのは
小さなノートと色えんぴつ

今歩き出した色えんぴつ
描かれ出した小さな心

ノートの中で流れてるのは僕の小さなLOVE melody .

自分の心を色付けたくて
思い立ったら早かった

あの日店で買ってきたのは小さな心と大きな期待

走り出した色えんぴつ
歌われ出した大きな期待

ノートの中で唄っているのは
あの日の光る僕だった

今開いたページの上に
何を書きたしていこうかな急いでも止まっても変わらないよ
僕は代わらないから

今刻まれた歴史の上に
何を積み重ねようかな
握っても投げ棄てても変わらないよ
僕はいつまでも僕だから

僕はずっと僕だから

絵本（後書き）

気づいた方もいるかも知れませんがドリーマーの反対を意味する物を書かせていただきました！！

ここまで読んでくれてありがとうございます

カクテルキス（前書き）

今までの詩と全然違います中途半端な感じですよ。

カクテルキス

まだ眠いお日様をバックに絡み合うシルエット
二人だけのオリジナルカクテル
ブラックチェリーにキスをして

初めてのカクテルはもしかしてレモンストレート

二回目のカクテルはもしかしてシンデレラ

激しい動き
舌への鈍痛

まるで炭酸水のように

ねえマスター

朝のバーじゃ物足りない

隠れている新月をバックに繋ぎ合うシルエット

二人だけの秘密のカクテルマスクメロンにキスをして

初めてのカクテルはもしかしてオレンジソーダ

二回目のカクテルはもしかしてスターフィッシュ

甘い快感
舌は毒性

まるでウイスキーのように

ねえマスター

夜のバーでは止まらない

カクテルキス（後書き）

思い付きで書いたらこうなりました。

中途半端すぎてすみません m (_ _) m

アドバイスとうあったらビシバシ辛口でしごいてください（笑）

ここまで読んでくれてありがとうございます。

マイトレイン

決まった道の上をあるく
用意してもらった山道レール
共に友とレースして
素直な笑顔はどこえやら

決まった道の上をあるく
自分のすべては山道レール親に急かされ走り出す
無垢な笑顔はどこえやら

もうある道をただ走るのかまだない道を切り開くのか
いったいどちらが楽なのかいったいどちらが正しいのか

もうある道を突き進むのかまだない道を創るのか

いったいどちらが哀れなのか
いったいどちらが間違いないのか

結果論と世間の比率
幸せと不幸の定義

何をなして
何を止めるか

正解は墓場の中へ

マイトレイン（後書き）

通塾中に書きました。

となりに香水臭いおばちゃんがいきました。

イキル

気がつくとも手の中はカラッポだった
僕の意味も僕の価値も

すべて手から滑り落ちて
そのカラッポの手を通った風
いつしかそれもなくなつて

明るいコマーシャルに乘せられて
いろんなものを見て
買つてみたけれども
ムナシサだけしか買えなくて
いつしかそれもなくなくなつて

ずっと暗いとここにいたから目が悪くなつちやつて
眼鏡を拾つてつけてみたらレンズ越しの景色は全然違つて
もっと遠くが見えるようになって
ゴールで手を振つてるキミも見えた
僕はもう少し頑張つてみるよ

一秒でいくつ何を考えられるだろう
僕のミクロな一秒も
世界の大きな一秒も
すべて重なり流れてキセキになつてく
僕のキセキはどんなかな

快晴の大空にのせられていろんなところに
行つてみたけれど
必要なのかなつて考えてしまつて

僕のキセキもつたいないなって

ずっと車に乗っていたから目が悪くなっちゃって
降りてゆっくり歩いてみたら

流れる景色は全然違って

もつと色々見えるようになって

ああこんなにも世界に色がついてるんだと

僕はもう少し歩いてみるよ

僕はキミと頑張るよ

禁忌（前書き）

あの…

？禁くらいですかね…

まあ読んでもいいですが、嫌いな人はマワレミギです。

禁忌は二編になってます。

禁忌

壱の禁忌【兄妹】

紅い月がうねるとき

夜桜の下君と僕と

壊れたダンスを踊り続ける

唇から漏れる吐息も

少し潤んだその瞳も

僕の甘い甘い媚薬となって

僕も君に特性媚薬

ぶっかけて快感

まだまだ長い夜の下で

熱いダンスは終わらない

この心臓の微かな痛みも

この後の現実も

二人の苦い苦い媚薬となって

逝っちゃえよ

限界と共に呟いた

弐の禁忌

満月、ベッドでよがるその声に

もう何度目かわからない絶頂に

絡み合う2つのシルエットは1つに

満月、二人で奏でた淫らな旋律

卑猥な指に踊らされ

狂い咲く花、緋色に消えることなく

2つの果実の頂点を甘噛みされればそれだけで

快樂地獄のもう虜

現実も妄想も通り越して

ああ「アイシテル」

そっと月がすくったコトバ

群蝶（前書き）

詩群です。

時間のある時によんでください。

群蝶

群蝶【紫】

あっちへおいで
こっちへおいで

僕がいてあげる
恐くないよ

群蝶【紅】

熱い熱い
体がある

口紅塗って
夜の町にでかけよう

群蝶【緑】

芽吹くもの
春がきた

育つもの
青々と

群蝶【黄】

すっぱいね

すっぱいね

次は黄色に誰が染まる

群蝶【蒼】

包んであげる

もう大丈夫

洗ってあげる

忘れないで

群蝶【モノクロ】

大嫌い

アイシテル

もうやめて

オツテキテ

群蝶【灰色】

踏みきって

白か

黒か

群蝶【旅蝶】

行こう行こう

遅いと置いてく

行こう行こう――

群蝶【おわり】

目を閉じなさい

夢がみれるわ

悲しいことも

忘れられる

おやすみ

ピンキーリング

キミとボクと一緒に
光ろうとしていた

この夢にボクらの恋を繋いでおくのは

むずかしすぎたかな

なぜかキミが

サヨナラを言った時に

キミを見ると雫が光っていたんだ

ボクこそが泣きたいのに

好きだったじゃなく

好きだから

ボクは唄おう

忘れないよう届けよう

キミはボクを待っていてくれた

次はボクの番だ

待ってみるさ歌を唄って
心届け続けて

二人で夜空を見上げ
百歳までよろしくね
そういったけど

早くも百一年目がきた

むずかしすぎたかな

ボクは諦めきれないんだ

だからさ

ずるくも汚くもさよならじゃなく

またね

を

今度を期待して

キミと出逢ったのも

また手を繋いだのも

間違いじゃなかったと

ハッキリ言えるよ

次ボクらが出逢ったそこを世界の真ん中としよう

そこで二人また始まろう

夜空でキスをしよう

だから今日も思い出の

体積でイッパイになったリング首にぶらさげ

ボクは歩く

百年後まで

ピンキーリング（後書き）

フラっとかいた詩です。

ここまで読んでくれてありがとうございます！！

小さなドリーム（前書き）

詩群です

二百字に至らなかったものです。
楽しんでいただけたら幸いです。

小さなドリーム

【おとなになる、ということ】

小さなころは

星さえも近かった

手を合わせれば

願いは叶ったのに

いつしか

いつしかこんなに遠くなって

流れ星

煌めいて

どうかあの頃へつれて行って

すべてが近かった

あの頃へ

【傷痕】

なかったことにしよう

そうおもっていた古傷が

疼くこんな雨の夜

バスの窓から眺めた街と
映る貴方の横顔は
しっとりと濡れていた

うまくは言えない

けど

今では愛しいこの傷痕を
あなたにみてほしいよ

まっすぐに

みてほしい

【詩】

少しでも
望みがあるなら

私は
どんな夢でも描く

夢のなか

心のなか

紙の上は私だけの秘密基地でしょ

ほら指で瞼でなぞろう

優しい優しい言葉を紡いで

【クレヨン】

淡い色

恋の色

パステルカラーのような色

きみの色

ぼくの色

優しい日溜まりのような

ぼくらの物語は

まるで十二色のクレヨンで描いていくように

始まりも終わりも

二人で彩る

いつか色褪せてしまわぬように

なぞなぞ（前書き）

なんの事を書いているのか当ててください！

答えは返信いたします（笑）
それでわ！

なぞなぞ

【ヒント…昭和の遊び道具です】

丸みをおびた君達に
爪をたてて傷つける

透き通つてゐる君達は
私の瞳を愛してくれる

その中には海がある

小さな頃の

ステキなステキな

シンジツ

【ヒント…朝みようね】

貴方の瞳は私を映す

映した瞳に貴方が映る

その先はなにがあるのだろう

【ヒント…のんですまうもの】

黒いものが渦巻く

悲しみが僕を襲う

逃げるけれど

もう無駄だと解ってしまった

【ヒント…一日一回くらいはきつと見る】

キミを通して覗いた世界

歪んでいた 僕が二人

さわると揺らいで

けど変わらずここに在る

【ヒント…雨】

始まりはどこだろう

探しに行った三輪車

アイシカタ

ある人のアイシカタ

それは本当に本当に

大切なものを

傷付けん

壊さない

といったやりかただ

だから私が破壊衝動に走っても
黙って包んで笑ってくれる

ある人のアイシカタ

それは本当に本当に

大切なものを

傷付けてしまう

時には

壊してしまう

といったやりかただ

だけど最後まできちんと直してくれる

大好きだよって心をくれる

私自身のアイシカタ

見つけたい

見つけてほしい

だってわからない

アイシカタも愛も知らない

だから教えて

だれか教えて

私の特別な愛を

法則

今日僕は三年ぶりに鏡を見ましたそしたらやつれた人が映ってました
それが自分だと気づくのに
少し時間がいりました

今日僕はしばらく息を止めてみました
そしたらまだ死にたくないと思死に思いました
そして空気をもとめて
僕は必死に咳き込みました

僕は「ボク」も「ぼく」も
大大好きなのに
僕はなぜ「僕」を
愛せないんだろう

今日僕は三年間のアルバムを開きました
そしたら笑顔がキラキラひかってました
それも自分だと解るのに
少し時間がいりました

今日僕は明日を百年後を考えました
そしたらやりたいことがたくさん浮かびました
そして僕は未来をもとめて
スタートライン切りました

僕は「過去」も「未来」も
大大好きなのに
僕はなぜ「今」を

愛せないんだろう

僕は世界も人も

みんな大好きなのに

僕はなぜ「死にたい」

だなんて思えたんだろう

コーヒー

ある日私は禁忌を犯した
貴女の心を知るために

ある夜私は禁忌を犯した
貴女と心繋げるために

黒い渦が
スプーンとなかよし
まるで自身を映しだすよう

ブラックで
舌への苦味を味わおう
まるで大人の恋のよう

ある日私は禁忌を犯す
貴女の心臓を盗るために
ある夜私は禁忌を犯す
貴女の全てを捕るために

黒い渦が
ミルクと混ざりあう
まるで私と貴女のように

カフェオレで
舌への甘さを楽しもう
まるで夢の恋物語

まるでそれは
コーヒーのような
甘くて苦い恋物語

コーヒー（後書き）

こっそり電車で有名な喫茶店へいつてきました（笑）
そのとき飲んでいたコーヒーからそのまんま生きました！

ここまで読んでくれてありがとうございました♪

最後のまたね

もう会うことはないだろうあんなに好きだったのに
期間限定の幸せ

もう会うことはないだろうあんなに楽しかったのに
期間限定の絆

あと一回分の使い捨てカメラ
シャッターおすと
間抜けな悲しい音になる

また会えるよねと
それが最後のサヨナラと解ってる
泣きそうな私を放って

時間は走る

もう見ることはないだろうあんなに好きだったのに大切すぎるあの人は

もう見ることはないだろうあんなに二人で笑ってたのに
大切すぎるあの人は

あと一回分の回数券
改札に通すと
間抜けで明るい音になる

またいつか逢おうねと

それがサヨナラの合図と解ってる
立ち止まりそうな私を放って

電車は走る

時間は走る

私も走り出す

走り出せ

最後のまたね（後書き）

最後までまたねはあるいみ逆で最後のまたねって意味が矛盾してたかもしれないんですが

そのわけを汲み取ってくれと嬉しいです

ここまで読んでくれてありがとうございます

EARTH

地球に一番近い星探した
地表から打ち上げたシャトル
僕ら人間の想いこめて
広い宇宙に飛んでいく

天国に一番近い星さがした月の上からジャンプしたシャトル僕ら人
間の願いこめて
未知の宇宙に飛んでいく

空をみて夢描き遠い星へ届ける
照らされたその夢は
何万年して地球へ帰る

空をみて夢を待ち降ってきた夢を受ける
受け止めたその夢は
何万年して僕らに届く

昨日光ってた星はたしかな
夢をみているんだ

明日光ってる星だってきつと

夢があっただ

失恋美容室

黄昏時に開店する

その美容室

特別な人だけ限定

その美容室

失恋した女の子が

新しい自分に生まれ変わる

まるでサナギが蝶になるように

殻を切り色を着けます

僕が貴女を染め上げます

黄昏時に開店する

その美容室

特別な美容師限定

その美容室

落ちこぼれの美容師が

お客と一緒に生まれ変わる

まるでカメの孵化のように希望と夢へと身を投げます僕は貴女に救われて

黄昏時の美容室

きつとドアを叩くときと

開け放っていくときと

貴女は絶対違ってる

大丈夫さ

また傷ついたら

僕がいるから

空色、僕色、蝶の色（前書き）

この詩は雛霧さんという方の詩をきっかけに思い付きました。
お気に入り登録している方なので是非そこから入って一読あれで
す！

そしてどの詩だったのか当ててください（笑）

とてもいい詩で題名もとても深いんです、
読めば読むほどイイので、

うん、それではお楽しみください！

長文失礼しました！！

空色、僕色、蝶の色

空の色を確かめに行っただ
誰かが青色と言ひ張るもんだから

そして緑の世界から飛び出して
青いとよばれる空へと羽ばたいた

思っていたより空は広くて思っていたより空は色んな色だった
もう何を探していたかも忘れてて
ただただ空に魅せられていた

そうだ遠い昔誰かが空の色を青色と言っていた
僕は気づいたんだけど
きつと空は青色なんかじゃあない

空の色は空色でしかないんだから
僕の色も僕色でしかないんだ

だから

きつと空も空色でしかないんだろう

ある日の朝

いつしか僕は地面に横たわっていた

「わかったよ、

——そらのいろ」

リトルキャットは夜唄う

暗い闇に身を溶かし

唄う唄う小さな黒猫

終わった夜にサヨナラをして

この日どこかの年寄りが

キレイな名前を呟き息絶えた

この日どこかの金持ちが

汚い声で怒鳴り散らし終わりをもたらした

明け方の闇に身を溶かし

叫ぶ叫ぶ小さな黒猫

始まりの朝に挨拶をして

この日どこかの母親が

小さきものに名前をあげました

この日どこかの無職の人がアラブの油田を掘り起こしました

何かの始まり

何かの終わり

突然変異を引き起こす

何かのスタート

何かのゴール

日進月歩をくりかえす

リトルキャットは夜唄う
リトルキャットは夜唄う

ロストチャイルド（迷子）

瞬きしたら何もなかった
目を見開いても変わらなかった
360度一回転してみたけれど
そこには僕しかいなかった

何をしてたかショックで忘れた
面倒な記憶喪失に出逢ったもんだ
そしてどこかで声がした
それが教えた大きなポツケを探った

クシャクシャの手作り地図と3つのキャンディー
後は動かないコンパスに小さなえんぴつと消しゴム
入れた覚えのない物ばかりはいつてた

地図にバツが書いてある
えんぴつを地面において倒れた方に進む
霞む景色に目を擦り
大きく地面を踏みしめた

道々キャンディーをなめるゆっくり噛まずに大切に
すると小さな女の子
キャンディーは残り一個に

手を繋いで二人で歩く
目的もなくただ歩く
そして見つけた光る穴
無理矢理体を押し込んだ

残ったキャンデー

きたない地図をもう一度見た

そうだこれは破り損ねた地図だ

幼い頃の自分が書いた希望の地図

思い出したポツケの中身

思い出した自分の意味

次、目を開けたら大丈夫

子供とコドモ、大人とオトナ

小さい頃は大きくなれとせがんでいた
大きくなると小さい頃がうらやましかった

子供はどこまでも純粹で
大人は汚らわしいもの

それはきつと一般論で
きつと正しい境界線で
私だって少しは思う
だけど子供の中にはコドモもいる
私がいい例だったかも

ねえ、知ってるからって子供じゃないの？
じゃあ、知らないのに大人になったの？

そんな疑問と自問自答
友達なんか首をかしげるだけ
嫉妬と絶望がしょっぱかった、
中途半端に知りすぎたんだ

だから涙も流せない

ソレ私にちょうだい？

さよならの曲

夕方のサビレタ商店街
君と歩くコンクリートの上
二人手を繋ぎぶらぶらと

夕方のあと少しの初デート
君と歩く優しい一時
二人想いを繋ぎぶらぶらと

もともとシャッターばかりの道にまた新たなシャッターが閉まる
そつと空を見上げれば
白い月に見下ろされた

夕方の静まり返った商店街
二人の足音だけがこだまして
現実ではないみたいに君と僕

夕方のカラスが鳴いてる初デート君と歩く愛しい沈黙
夢の中にいるみたいに君と僕

流れていたラジオがとまって
二人のさよならの曲が流れる
そつと君に微笑むと
君もそつと微笑んだ

静かな優しいさよならの曲
二人の恋に終止符をうつて
静かな優しいさよならの曲

二人の時間にもそつと

さよならをつげた――！。

非道徳、非凡、異質

例えばこんな授業がある

障害者の人と話をしよう

差別を無くそう

平等にしよう

これははたして必要なのか答えを求めた七歳の夏

道徳の授業は洗脳授業

そう気づいたのは八歳の春

なんでかって？

そんなの知ってどうすんだ野次馬には興味ないんだ
自己満足の世界に浸れ

道徳の授業は矛盾だと

意見したのは九歳と一時間

障害者を障害者と名づけることが差別だと

仲間と友達どっちが仲イイそんなの知るか
友達はドロドロしてる

そこ、親友に変えるな！

お前は何歳？

見てわかんねえの？

先生のこと私は先生と呼びたくなかったよ

頼りないな

先生には算数教えてもらうことなんざ期待してない

ただ幼い私の人生に光をプレゼントしてくれることを期待してたんだ

ドラマのようにはいかないと

けどどこかで期待していた

ため息と吐息

あなたは先生ですか？

非道徳、非凡、異質（後書き）

小さい頃の詩をお直して出します。

かわいくねーな（笑）

かなり病んでます。

でも転機は五年生でありました！！

残念ながら学校じゃないですけどね」（「」）

ということですよ。

ありがとうございました。

雨の日

傘をさして散歩に出かけた地面を叩けば跳ねる水滴
ポツポツ心地いい音は
耳を澄ませば聞こえてくる

水溜まり覗けば
もう一人の私
傘でそつとかきまわすと
広がる波紋に私が揺れる

長靴履いて散歩に出かけたスキップすれば跳ねる水滴ピチャピチャ
心地いい音は耳を澄ませば聞こえてくる

傘をどければ
灰色の空
雨が目に入ったら
ひるんで頭を左右にふる

さあ行こう
カタツムリとお散歩
さあ行こう
晴れの日とは違う道を

なにか見つかるかもしれない
見えない何かが

雨の日に出かけよう

雪ダルマ愛物語（前書き）

季節外れですが…

雪ダルマ愛物語

君からもらった雪ダルマ
溶けてしまう雪ダルマ
不格好だけどかわいい
雪ダルマ

無くしたくなくなって
冷凍庫に大事にしまった

だけど邪魔になる雪ダルマ母の目の敵雪ダルマ
気を付けないと食材に潰される
雪ダルマ

でもある日流し台の中で
小さく小さくなっていた

私は悲しくなつて涙をおとした
それがいつそう雪ダルマを悲しく見せた

けれどもやっぱり雪ダルマ腐っても君の雪ダルマ
私に消えない幸せくれた
雪ダルマ

溶けた水のなかにビーニール袋
そのなかには幸せのケース開ければ君の気持ちと
薬指ぴつたりの指輪があった

雪ダルマが一役かった

落とし物

ちよつと君

さつき涙をおとしたよ

大事なものだろ

ちゃんともつてなきや

余計なお世話だ

さつき俺は捨てたんだ

邪魔になるだろ

だからすてるんだ

そう言つた男の顔は

やはり悲しそうで

泣きそうな顔をしてるのに流れぬ涙

ねえ知ってる？

なんだ、

涙は落とすためにあるんだよ

そう聞いた男の顔は

どこか切なそうで

壊れてしまいそうなのに

誰も見向きもしなかった

だから捨てるなよ

自分で拾いたくなかったんだろ

じゃあもつと俺は苦しくなる

辛かったらいいよ落として

そしてまた俺は拾わなければならないのか

うん

そんなの嫌だ

大丈夫、

なんで？

僕と一緒にだから

ありがとう

そう言った男の顔は

とても恥ずかしそうで

とてもうれしそうだった

目からこぼれ落ちたのは初めて流す

涙
だ
っ
た

記憶

終わったあと

僕は何を問われるんだろう

感じていた確かな温もり

ついさつき

まだあった悲しみ

今はもう微かな温もり

もうさつき

なくなつた哀しみ

始まる時に

僕は何を問われるんだろう

感じ始めた微かな温もり

ついさつき

生まれた喜び

今はもう確かな温もり

もうさつき

てにいれた喜び

何かの始まりに

何かの終わりに

一体なにがあるんだろう

一体なにがあったんだろう

だからその涙に暮れる
君はちゃんと魅せてよ

何かその先に

何かその後に

一体なにがあるんだろう

一体なにがあつたんだろう

だからその涙に暮れる

君はちゃんと綺麗だ

証拠

もう解り始めたかい
このドアはひとりぶんの
広さしかないって

もう気づき始めたかい
この小さな部屋からは
出なければならぬって

ドアはふたつあるけど
どちらもひとりぶんの
命しか受け入れないって

どっちがどっちを開けて
くぐるか解っているだろ

どっちがいいかなんて
そんなの解っているだろ

お願いだから頷いて
ウソでもいいから頷いて

行こう

もう会えないかもしれないけれど

行こう

その一言でふみだせるから

歌うから

忘れないよう歌うから

歌うから

どこまで君に届くかわからないけど

バイバイ

蛍

光りたい
すぐに消えゆく僕だとしても

誰より強く
強く光って

君に届いて
くれたなら

もう一度だけ
会いに来てよ

去年の君が
記憶で笑う

もう夏は終わる
もう夏は終わる

それぞれに

籠の中から月見上げ

何を思う

何を思う

せめてユメの中だけは

一緒に居させて

そばにいさせて

見つけたい

私の命が消えるまでには

何より早く

早く見つけて

あなたが光って
くれるなら

そしたら今度は
失わないから

いつかのあなたが
記憶で光る

もうお話は終わる
もうお話は終わる

部屋の電気と世界が終わる時

午前三時に目が覚めた

まだ窓の外は暗いから

部屋の電気をつけようとした

スイッチをおもむろに手で探る

だけど途中でやめといた

なんだか部屋を見たくなくて

私の知ってる世界じゃないと感じて

例えばそう夢からさめるように

布団に入って次起きたときは

きつともう大丈夫だろう

明日これを言ったらみんな笑うだろう

でも私は本気だった

だってそうじゃないなんて確たる証拠がないから

気づいてないけれど

いつ何がおきてもしようがないんだ

人生は綱渡り

今日の遅刻の理由は

世界が終わりそうだったから

愛

地球をじかに感じたくて
地面に寝転び目を閉じた

そしたら心臓の鼓動が
とてもうるさく感じたんだ

静寂など僕は知ったことないけど
だから地球の鼓動がわかる

地球の鼓動の正体は
そこにいる僕達の命

ほら聞こえるだろう
息づいてる地球の鼓動が

ちきゅうぎを両手で包めばほら
こんなにも小さく見える

僕達は地球という愛に包まれている
地球も僕達という愛に包まれている

つまり愛とは最初から
近すぎて

見えすぎて
気づかなかったものなんだ

君も地面に耳をつけてごらん

夏休み

もう終わってしまふ

9月が来てしまふ

待つてと裸足で引き留めても
すごいスピードでいってしまふ

8月は沢山の蝉も命を燃やしきる
待つてと駆け足で追っかけても
命にもまっとなしで終わりが来る

夕方丘を下り

橋を越え

転んでも

車道をはしる

8月をおつて

命を追つて

今日を追つて

明日から逃げて

待つてて欲しい

キラキラした

にぎやかな夏

私が追い付くまで
待つてて欲しい

まだ遠い遠い夏

まだ暑い暑い新学期

ああ行ってしまうんだね

来年また会おうね

バイバイ私の夏休み

気楽と寂しい

一人でいれば気楽だよ
と、いう誰か

私もそうだから一人が好きだった

けれど時々影を見せる

寂しい、に気がついていたよ

やっぱり誰かの温もりが恋しくなるんだ

嬉しいこと悲しいこと

裏切られるから？

信じられるの？

やっぱり誰かいてほしい

たまには強くその手を握って

私が死ぬときに

誰か一人泣いてほしい

思うことは多分弱さじゃない

だから人は輝いてるの

だから私は寂しいの

月をみあげて

星をさがす

丘の上に思いを運び

きつと私のいない朝は

誰かがきつと泣いてくれるだろう

だからきつと誰かがいない朝に

私はきつと泣いていたんだ

だから人は涙で始まる

だから人は涙で終わる

裏切る「信じる」つまり0

もう私は君に裏切られることはない

なぜかってそれは君を信じているからさ

裏切られないのは
信じられないから

裏切られないのは
信じているから

だからそう、

ねえ、

きっと君も私には裏切られないと思うよ

裏切るなんて最初からないんだ

だから

信じるだって最初からないんだ

それじゃあもう私は行くけど

君は大丈夫だよ

また会えたらいいな

そしたら今日からその日までの話をしよう

またね

勇気と優しさ・長靴と傘

ちよっとお尋ねします

雨の沢山ふっている所はありますか？

そういえば君のほっぺはずいぶん濡れているね
僕の傘をプレゼントしよう

それは綺麗な赤いかさ

雨にうたれた少女を
守ってくれる丈夫なかさ

ちよっとお尋ねします

雨が沢山ふっている所はありますか

そういえば君の足はずいぶんどろんこだね
僕の長靴をあげよう

それは素敵な長靴

傷にまみれた少年を
守ってくれる強い長靴

昔もらった雨具を返す

大きな大きな少年少女

いつかもらった助けを返す大きな大きな少年少女

たつたひとつ

ねえ君は

今まで誰にも好かれてないの？

ねえ君に

今まで僕は恋してきたんだよ

それを君は知ってるのかい？

それを君は知ってて言うのかい？

ねえ僕は

何度も君に言っただよ

ねえ僕を

君はホントにみているの？

それを君は簡単に無視する

それを君は見て見ぬふりをする

この地球上に人間は

60億つ個もいるけれど

この地球上に君は君は

たった一人しかないんだ

ねえ君は

今まで誰にも愛されてないの？

ねえ君を

今まで僕は愛してきたんだよ

それを君は知ってるのかい？

それを君は知ってて言うのかい？

ねえ僕は

何度も君に叫んだよね

ねえ僕に

君にふりむいてほしいんだ

それを君は簡単に無視する

それを君は見て見ぬふりをする

この地球上に人間は

60億つ個もいるけれど

この地球上に僕は僕は

たった一人しかないんだ

今この時に僕と君は

たった一人づつしかないから

だから君は君は

もう「死ぬ」なんていうな――。

コウカイ

明日は築きあげることができるけど

昨日は築くことはできないから

さあ、顔を上げて、

昨日という後悔を振り向かず

明日という毎日に航海していこう

最近後悔してばっか

昨日という今日も昨日の昨日という今日もずっと

明日を待ってるうちにまた今日がくる

ああ、昨日やっておけばよかった

なんて後悔しーの、明日でいいって

そして今日も今日を捨てる、ずっとくりかえしていく切ない連鎖

ホントは立たなきゃいけないのに、わかってるさ

ああ、天井見上げ、そっと嘲笑

僕が俺になった

あたしが私になった

明日へむかう第一歩ふみだす

明日は築きあげることができるけど

昨日は築くことはできないから

さあ、顔を上げて、

昨日という後悔を振り向かず

明日という毎日に航海していこう

人は毎日変化していくんだ

変わるきっかけは人との縁であつたり、出来事や経験その他もろもろそれで僕は変化を、きっかけをまってるんだが、一向にな…でもそれだけで俺は変わったらしい、

なんでって、「俺」になつたからじゃねーの？

って聞いたら違うって、俺はこれで大人に近づいたと思ったのにあいつは子供ってか、少年っぽくなつたって言いやがった
はあ、変わるって進むだけじゃねーんかい！

青年が少年になつた

女性が少女になつた

進んで戻って戻って進んで

明日は築きあげることができるけど

昨日は築くことはできないから

さあ、顔を上げて、

昨日という後悔を振り向かず

明日という毎日に航海していこう

コウカイにはふたつある

後悔と航海

かたつぽは過去でかたつぽは未来

どっちをとる！どっちをとる！

明日は築きあげることができるけど

昨日は築くことはできないから

さあ、顔を上げて、

昨日という後悔を振り向かず

今日という毎日に航海していこう――

私世界

物を盗ったから三年牢屋
人を殺したから十年牢屋
けれど反省したので二年減
結局時が経てば自由の身

おばちゃん大切な物三年
愛されている子供は十年
けれど犯人謝り二年減
結局それだけの価値だった

物の重さ

なにが定義？

価値の答え

そんなのないでしょ？

what you saw so far

(ワット ユー スォー ソー ファー)

think contents of your study

(シンク カンテンツ オフ ヨア スタディ)

all ways you are under a grow-up

(オー ウエイズ ユー アー ビー アンダー ア グロウアップ)

is it same with faces

(イズ エテ セーム ウイズ フェイセス)

you need to know world

(ユー ニード トゥー ノー ワーオード)

wrecked your narrow sense of values

(レケッド ヨア ナロー センス オフ ヴァーリユー)

ねエ、決まりつてなに

価値つてなあに

それだけであたしの見てきたものは

ちっぽけだったってわかる

少しの夢とむなしさが

あたしの頬を流れおちた――

もしもあたしが全知全能ならば

すべてを知り律することができるなら

いったいナニがわかるというんだろ

人のココロは知り得ない

だれも彼も人のココロはわからない

なのに心理学、読心術、これはナニ？

そんなんではわかんなら誰もなやまねエ

ねエ、わかってあなたはナニすんの

気持ちの変化

なにが定義？

ナニをもつて楽しい？

いつも人は自由でしょ

what you saw so far

(ワット ユー スォー ソー ファー)

think contents of your study

(シンク カンテンツ オフ ヨア スタディ)

all ways you are be under a gr
own-up

(オー ウエイズ ユーアー ビー アンダー ア グロウアッ
プ)

is it same with feces

(イズ エテ セーム ウイズ フェイセス)

you need to know world

(ユー ニード トゥー ノー ワーオード)

wrecked your narrow sense of v
alues

(レケッド ヨア ナロー センス オフ ヴァーリユー)

ねエ、キモチってなに

ココロってなに

それだけであたしの学んできたものは

ちっぽけだったってわかる

少しのなにかと悔しさが

あたしの頬を流れおちた――

あたしは思った、

ペットシヨップの犬猫は

人間の価値で

まだ幼い子供は

勝手な大人たちの価値で

ねエ、命ってなに

生きるってなに

それだけであたしの命の時間は

ちっぽけだったってわかる

社会の矛盾と悲しみが

あたしの頬を流れおちた――

what you saw so far

(ワット ユー スォー ソー ファー)

think contents of your study

(シンク カンテンツ オフ ヨア スタディ)

always you are under a grown-up

(オー ウエイズ ユー アー ビー アンダー ア グロウアップ)

is it same with faces

(イズ エテ セーム ウイズ フェイセス)

you need to know world

(ユー ニード トゥー ノー ワーオード)

wrecked your narrow sense of values

(レケッド ヨア ナロー センス オフ ヴァーリユー)

訳、

今までお前が見、学んできたものを考える

いつも大人のいいなりに、糞みたいなものだったろ

もつと世界知れよ、狭い価値観なんかぶつとばせ

日陰と向日葵

私は君と一緒に埋められました

そう、人間たちに植えられたんです

だから私達はとても仲良しなんです

でも、そんなにうまくいかないもんですね

君が大きくなりすぎて

私は大きくなりなくて

私にお日様をください

君というものが嫌いです

君という邪魔者が

私は君と一緒に育っていきました

ねえ、いったい何がちがったのかなあ

だから私達はともいがみあってます

ああ、世の中うまくいかないもんですね

私は小さくなりすぎて

君はきつと変わってなくて

私に太陽をください

私というものが嫌いです
私という弱虫が

ある日私は植え替えられた人間たちに植え替えられたお日様は太陽
は手にいれたけど
今度は君がいらないじゃないか

私にあの君をください
人とゆうものが嫌いです
人とゆう矛盾が

私にその君をください
日というものが嫌いです
日という不公平が

私にください
私にください

1 + 1 = 2

嘘

まっ 白い嘘

真っ 赤な嘘

どこに何の違いがあるのか

嘘は嘘

白も赤もないサ

でも君に聞いたら

君はこう答えたんだ

まっ 白い嘘はね、他人のためにつく嘘
真っ 赤な嘘はね、自分のためにつく嘘
と、

意味分かんない、

なんだそれ

嘘は嘘だヨ 変わんない

ねえ 誰か教えて

君の言ってた嘘を――

僕

今までの悪行

今までの善行

どっちが多いかもうわかってる

僕は孤独

他には僕はいない
でも君にいたら
君はほほ笑んだんだ

アナタがたった一人のアナタで
私もたった一人の私だから一緒になれたんでしょ
と、

そうか、そうなんだ、
僕がいっぱいいたら
君を取あいだからな
ああ、君が好き

愛おしい――

いつまでも、
僕が僕でありますよう
いつまでも
君が君でありますよう

たった一人だから愛おしい

いつまでも、
僕が僕でありますよう
いつまでも
君が君でありますよう

次の僕らゝキミから僕へゝ

明日の夢今日の夢

そして今は今の夢と現実のはざま

僕のたった一個の大きなわがままは来世はキミと一個になること

明日の闇今日の闇

そして今は今の闇と光のはざま

僕のたった一つの大きな存在は前世もきつとキミだったということ

無い頭を使って考えだせたのはこんなこと
キミとずっと同じでいたいと願っていたから

(キミ+僕) × キセキで僕らは1個になれる
つぎの産声の計算式はこうなるはず

いや、なつてくれ叶っておくれ僕の想い

明日の僕今日の僕

そして今はキミの僕と僕のはざま

僕のたった1個の小さなモウソウはキミと一緒に生まれること

明日のキミ今日のキミ

そして今は僕のキミとキミのはざま

僕のたった1個の小さなソウゾウはキミと一緒に眠りにつくこと

狭い脳をフル回転して出した答えはこんなもの
キミとずっと一緒にいたいと思っていたから

(キミ+僕)×キセキで僕はキミになれるんだ
つぎの僕等の計算式はこうなるはず
いや、なってくれ絶対実ってくれ僕の願い

今日この日この時間をもってキミに告げよう僕のココロ

誕生日、同じ年をかさね一緒に祝う

ケーキはワンホール×2でショートとチョコそこに二人の名前

笑った時も2倍になり

乗り越える力も2倍なる

けどまあキミと僕9:1がいいよきつと幸せ

(キミ+僕)×キセキでキミは僕になれるんだ
つぎの二人の計算式はこうなるはず
いや、なってくれ来世に有ってくれ僕の願い

今日この今この一瞬をもってキミに届けよう僕のココロを

ココロほーむ

もし心が家だったんならいいな
だってキミが落ち込んでる時
ドアとピンポン連打すれば
心のキミと笑いあえるよ

けど心が家ぢやあないのは僕と
キミとが微笑み合う意味を
話し合って確かめ合う意味を
のこしているから

キミの家に顔を突っ込んで
キミの心の窓全開にしてほしい
けど、だけど
んなのできないから、不可能だから
二人笑い合おう、二人笑い合おう

もし心に電話があればいいな
だってキミが悲しんでる時
電話をかけてコールすれば
心のキミとお話できるよ

けど心に電話が無いのは僕と
キミとが手をつなぐ意味を
話し合って確かめ合う意味を
のこしているから

キミの心に電話をかけて

キミの留守電俺でいっぱいになりたいけど、だけど

んなのできないから、不可能だから二人手を繋ごう、二人手を繋ごう

キミの心と僕の心と

微笑みあってあって確かめ合って

歩いていこう、笑っていこう

おとぎ

一生

消えない

まほうを

かけるよ

目を閉じれば

ほら、

聞こえてくる

目を開ければ

ほら、

見えてくる

実感がなくても

確かじゃなくても

そこにあるもの

時に逆らえば

いいとは

僕は言わない

別に時は

悪くないから

けど

時に流されて

いいとは

僕は言わない

別に僕は

悪くないから

耳を塞げば

ほら、

見えてくる

耳をすませば

ほら、

聞こえてくる

触れられなくても

確かじゃなくても

そこにないもの

みんなに逆らえば

いいとは

僕は言わない

別にみんなは

悪くないから

でも

みんなに流されて

いいとは

僕は言わない

別に僕は
悪くないから

悪に逆らえば
いいとは
僕は言えない

別に僕は
正じゃないから

けど

正に流されて
いいとは
僕は言えない

別に正は
ひとつじゃないから

きっと終わりは

悲しくないから

辛くはないから

だからさよなら

だからおやすみ

イルカ

友達からもらったイルカ
ケータイについでるイルカ

それを見て君を想う

キラキラ輝いてるイルカ
光の色を変えるイルカ

それを見上げて君を想う

蒼さは君の悲しさで

蒼さは私の涙で

蒼さは君の優しさで

蒼さは私の勇気で

ほんの小さなイルカなのに笑顔になれる不思議な力

ほんの小さなイルカなのに私は泣ける不思議な力

ケータイにかかわらずついでる

毎日かわらず揺れている

小さなイルカ

私のイルカ

大好きなイルカ

小さな冒険

走り続ける

走り続ける

まだ旅ははじまったばかり

「あ、ヤバイ教科書忘れた

あのじつちゃん先生きびしんだ」

「どうしよう

どうしよう」

「そうだ！

取りに帰ればいいんだヨvv」

校則ではダメだから

高速で取りに帰れ！

あ、ギャグわかった（笑）？

走り続ける

走り続ける

シリゴミしてんじゃねーぜ！

「俺たちの理科の授業は

あいつの教科書にかかってる」

さあ勇者になって！

さあ勇気だして！

先生にみつかなって！

走り続ける

走り続ける

音をたてずに 気配消して

走り続ける

走り続ける

あ、母ちゃんになんて言おう…

「お後がよろしくないようですね」

ちゃんちゃん♪

現在進行形

コドモという箱からぬけだして
期待するあたしがみたのは「現実」だった
引き返すのには知りすぎていて
立ち向かうのには知らなすぎた

夢という想いから抜け出して
キラキラしてる眼がみたのは「闇」だった
逃げていくには濁りすぎてて
あらがうのには純粹過ぎた

それでもあたしは歩きだす
むかし何でも教えてくれた先生のように
答えをくれる人を探しに
答え合わせをするために

自分という希望を投げ捨てて
あきらめた後に残ったものは「無」だった
取り戻すには離れ過ぎてて
また拾うにはもう見えなすぎた

それでもあたしは進んでく
むかし何でも解決してくれた大人のように
「今」を変えてくれる人を見つけに
明日を光にするために

ちがう！ちがう！
否定する

痛い！痛い！

あきらめる

待とうだれか

変えてくれるまで

記憶が思い出になるとき

なんであなたは立ち去ったの？
なんで闇に進んでいくの？

こつちへおいでよ、こわくない

なんであなたは進んでいくの？
なんで光をもっているの？
早く消えてよ、まぶしいのよ

君は独りで泣いてるんだろ
君の痛みは心は気づいてと叫んでるよ

あなたホントは笑ってるんでしょ
私はさみしくないから光があなたを呼んでいるわ

近づいた分遠ざけて
見えなくなったら走って追って

Aー本当は
思ってたんでしょ無理だって

Aー本当は
わかってたんだよ無理だって

すくえなかった君の
つかめなかったあなたの
伸ばした左手

いまじゃ もう熱は感じなの

今日で思い出ししょうか

「「「おようなら」」」

二進法（前書き）

激しい…。

二進法は1と0で数字を表す方法です。

二進法

否定か肯定二つの世界

たつた二つ

されど二つ

否定してばかりじゃいけないさ
肯定しやくちや数にはならない

だから切なく連鎖する
だから刹那連鎖する

もうだめなんじゃない？
続ける意味は少なくて

もういいんじゃない？
続けた先は遠すぎて

やめてよ
やめてよ

もう飽きてきたんだ

黒か白かの画一的世界に

否定か肯定かの画一的世界に

糞みたいな自分の世界に

ああ、限りなくグレーな気分

はあ、疲れたら休めばいいのに

もう、そんなこともできないし

そう、おいてかれたらいやだから

ねえ、なんで走ってるんだろう

止まっちゃえばいいだろう

ケツ叩かれてないてんじゃねーよ

1 1 1 1 1 1 1 1 0 1 0 1

身近な大人達に、寂しさと軽蔑の花束を

私はなぜかアタリだったようだ
神様ジャンボ宝くじに

でも今なぜかハズレみたいなんだ
自分はハズレのごみくじに

なぜあんたは矛盾しているなぜあんたに迷惑してる

やめてくれ
やめてくれ

人に土足でふみいるような友達を連れてくる

やはり類は友を呼ぶ
私は君たちにせめられる

9月に殺されるのか
君たちに殺されるのか

どちらがはやく

どちらがつらいか

死にたくないよ

私は私が大好きだから

私が私じゃなくならないで

挫折した

誰かしてくれ

自問自答の答え合わせを

もう限界を越しているんだ

だから私にたかるな

海と空

私はあなたの色が映ったの僕はあなたの色が映ったの
どっちがどっちの色になったの？

最初は両方無色だったよ
それから黒くなっていった
最初はふたりぼっちだったよ
けどたくさんみんなができた

赤色黄色

僕達はプレゼントしたの

赤色黄色

誕生を祝福したの

残りの色を僕達はわけた
そうだはんぶんこしたんだ

残りの色は何色？
はんぶんこしたのは何色？

答えは君も知っている
答えは僕も知っているから

カギは赤色と黄色
足してあと黒になるには
何色がたりないか、

そう、今はわかるでしょ
僕達をみてよ

答え合わせをしよう

星の道（前書き）

曲先で創った歌なんです
がその詩を投稿します

詳しくは活動報告に書くと思うので
時間があつたら読んでってください。

星の道

今日僕はさ誓ったんだよ
未来の僕に

この日の思いでと
夢は忘れずに持っていくよと

今日僕はさ踏み出すよ
大きな一歩を

この日からまた大きく
なるための大きな一歩を

今まで苦しくなつて
どうにもならなくなつても
今ここにいるのは

あなたがいたから

さあ歩きだそう
またいつか逢おう

ふりかえらないその時が来るまで

さあ踏み出そう
待ってるものがある
一歩できつと景色は変わる

今日僕はさ誓ったんだよ
ここにいるみんなに
ここで知った友情も

恋も忘れずに持っていくよと

さあ歩きだそう

きつと大丈夫

今日の僕を忘れない限り

さあ踏み出そう

涙はこらえて

明日目指し今を唄おう

最期まで唄って

【子猫のレクイエム】

君は幸せだったかい？

ぼくの詞でさえ矛盾してるこんな世界で生きてて

僕達が放り投げられてからもうずいぶんたつんだ

その時覚えた言の葉を

つむぎあげて

君に届けよう

君へうたおう

【生きてる？】

あなたは生きてる？

まだ生きていた少女は聞いた

いいや、わかんない

私は首をかしげた

ふうん

少女は息を引き取った

【聞いて】

キスしてください

愛してください

抱き寄せてください

私を離さないでください

好きです

愛してます

だからあなたの命をください

【やだ。】

いつから大人になったの

いつからそんなに嘘をつくようになったの

いつからお金がほしくなったの

いつから僕もそんな目になるの

やだ。

【どっちが先なんだろう】

いつか終わりは来る

よかった。

その気持ちにも終わりは来るんだね

終わったら始まる

よかった。

その僕たちはやり直せるんだね

【へっくしゅん】

美しい友情ってなんだろう

かわいい子供ってなんだろう

哀れってなんだろう

世界平和ってなんだろう

優しさってなんだろう

たくさんかんがえなきゃいけない

こんな世界

おわっちまえ

【応援】

したいけど

されたくはない

されたいけど

したくはない

なんでかって？

知ってるでしょ？

【実は結構近い】

いいことと悪いこと

真実と嘘

自分と他人

愛と憎しみ

そして君が思っているより

結構遠い

【いや、好きだよ】
「準備おそいね」

と親友

「いや、帰りたくないし」

と、私

「じゃあ先生が好きなんだね（笑）」

周りが沸く

「ちがうよ」

鞆を背負いたため息をひとつ

「先生より家が嫌いなだけだよ」

「ぶっ」

笑う先生

本当は君にかなり愛着度があるんだけど、ね

「またね」

「うん、またね」

嫌いなふりしてちよつとずつといてほしい親友

ああ、明日は土曜日だ。

【しーる】

はがれないし

無理にやると破れるし

ほんつとにお前

やっかい

【いや、嫌いだよ】

いつも私と遊ぶ君
いつも私に説教する君

いつも私に絡まるあんた
いつも悪口いつてるあんた

「あたしのこと好き？」

「いや、」

少し違った明日をみよう

【いや、いいよ】

「ねえ、この服どう？」

「ああ、いんじゃない？」

…どーでも」

【なく】

かなしくてなく

うれしくてなく

くやしくてなく

いかってなく

せつなくてなく

ひとはなく

【墓場】

唄を聞いた

花束もたむけられた

代わりに私の意思をもっていつて

忘れないで

どうか遠くでも

叫べ

叫べ

熱き小さな命達よ

叫べ

もう朝日は登った

少女の涙は

ノートへの苦しみは

ゆっくりと染み広がり

優しい優しい詩にな^{うた}った

少年のうったえは

シンセへの文句は

激しいビートへと変わり

たくましいたくましい歌となった

二人出逢ったところ

世界の真ん中の始まり

その手に握った特別のマイクは

ハウったって音を拾う

叫べ

燃える小さな鼓動達よ

叫べ

ほら、にわたりの鳴き声

今にも消えてしまいそうな夢達よ

今にも冷えてしまいそうな心臓達よ

叫べ叫べ叫べ！

このすべてをステージに

星という客席を埋めて

二人は叫ぶ

心を叫ぶ

叫べ

EARTH君

EARTHというワタシが
働きはじめてもうかなりたつ

それは私が消えるとき
退職するワタシという仕事

産んだ意味はないし
生きて何があるなんて確定した物はない

だけど君は絶対必要なものである

理由はあるのか
ないのか

いや、見つけたことはない

見つける気もない

こんな事をいうと
私が息をしていることを絶望だといってるようだ
人間は意味や価値が大好きだから

悔しいんだ
私は

そんなこといつてるやつらの横で

泣きたいんだ

君は

死んでる意味や価値があるってこと

そいつらはみんな無視ってこと

私は忘れたくないの

他の殺した明日の上に

私の今日が成り立っているんだよ

君は届けてやって

どこかのだれかの無くし物

私に気づかせてくれたように

やめたくないよ

いき続けること

やりたくないよ

めをそらし続けること

ねえ EARTH...

うたどけい

悲しいね

詩を書くのは

悲しいね

唄い続けるのは

届けるなんて大層なもんじゃない
気違いなんて物騒なもんじゃない

ただ、ただ

独りよがりの小さな音

聞き取れない

喉につまってしまってる

そんな些細な

小さな唄

想いを心臓を

生を時間を

砂のように

手から滑り落ちて

誰かに少しでも

忘れないでもらうために

動く

続く

遠くへ

愛しいね

哀しいね

切なくなる

しょっぱいよ

そんな自分を誰かに

みてほしいよ

忘れないで

覚えてて

いきたいよ

止まらないで

一人のいた証

立ち入り禁止用屋上

僕は一生のおねがいを今まで何回つかったのだろう
僕は一生のおねがいをこれから何回つかうのだろう

数えきれないほどつかったよね

これからもきつとたくさんつかうんだ

こんなんじゃないくつ人世があっても足りないよ

僕のオトンとオカンとその二人のオトンとオカンと
さらに何千人と記憶にないオトンとオカンから
プレゼントされた命だから

僕はどれくらいの時を今までのりこえてきたのだろう
僕はどれくらいの時をこれからのりこえていくのだろう

覚えきれないほど走ったよね
これからもきつとたくさん追いこすんだ
こんなんでいつか転んだらどうなるんだろう

僕のオトンとオカンとその二人のオトンとオカンと
さらに何億人と記録にないオトンとオカンから
プレゼントされた体だから
自分だから

「人」に「夢」を与え
「夢」と読まず

ひとつになんて選べなくて

すべて欲しくて切なくて

「人」が「憂」いて

「優」しさと読まず

それを知ってる君を

みんなは優しいというの

僕は世界の時の始まる前に行ってみたいよ

知りたいよ

知りたくないものも

知れないことも

穴

泣きたくなつた

私の手は冷たかつた

それを知つて

泣きたくなつた

泣きたくなつた

あなたの手は暖かつた

それを知つて

泣きたくなつた

寂しくなつた

座つた椅子が冷たくて

それに気づいて

寂しくなつた

寂しくなつた

自分より暖かいものが

周りになくて

寂しくなった

悲しくなった

自分を追求してみた時

それも矛盾で

悲しくなった

悲しくなった

なにもなくてわからない

それを感じて

悲しくなった

溜め息を殺して

涙を忘れて

どっかに置いてきて

わからないまま笑えて

泣きたくなった

寂しくなった

悲しくなった

ちくしょう

おい、そんでどうすんだ

あいつの変わりに身を投げ出して

お前の簡単に投げられる身をあいつは必死に守ってたのか

おい、そんでなんになる

お前がいなくなつた後の始末は俺か？

あいつ心を壊していつて無責任にここを去っていくのか

なんなんだ、正義のヒーローか

俺から見たお前は俺の正義じゃない

じゃあなんだ、悪の魔王か

お前から見るおれだって正義じゃない

そして、なんなんだ

考え直して出た答え、力づくで奪えよ

悩むほど冷静なお前はあいつがそこまで大事じゃないよな

そして、こうなつた

俺は命をあきらめる、あいつの喜びを願う

なんなんだ、悲劇のヒロインか

俺から見たお前はそれほど悲しくない

じゃあなんだ、これは喜劇か

お前からみてりや自分だけはつらい

そりゃない、お前はいつもヒーロー

不幸の上の幸福はこぶ

そりゃある、俺はいつもラスボス
お前にたてつきそして負ける

なあ、来世で逆転、現世で墮落
できねえのかな、俺に期待

アホだろ、来世なんてきやしねえ
俺の来世は、来世の現世

もう時間だ、
「ばいばい」

すなお

今すぐアナタに伝えたい気持ちがあるの
言の葉と音の花を私の想いで包んで
優しい風にのせてゆくよ

こっちを見て笑ってくれさえすれば
ほら世界はこんなに簡単に色がつく

大好きです

私の中でアナタが一番なんです
片想いでも幸せなほど
アナタが愛しいんです

昔から温めていた特別があるの
本当の私をほんのちよつとのピュアで包んで
勇気で大切に届けるよ

身勝手なことだってわかってるけど
ほら視界はこんなにクリアになるんだ

うれしいんです
ありがとうとアナタに叫びたいんです
見るだけでも苦しいほど
アナタが愛しいんです

壊したくなくて
傷つけ傷つくのが
恐くて怖くて

大好きです

ありがとうとアナタに叫びたいんです

どんな言葉も安すぎるほど

アナタに伝えたいんです

下向き向日葵

日をみつめたかった
だけどそう甘くはなかった
みんな精一杯背伸びして
神様は平等じゃなかった

けどね
下を見ないでいるみんなは
ほんの少しの幸せにも気づかないんだ
太陽があることが当たり前になってるんだ

そうさいつだって下向き
でもだからこそ見えるものがある
あたりまえに気づける力がある

空へ行きたかった
だけどそう優しくはなかった
私も精一杯背伸びして
だけど全然足りなくて

だからね
せめて下を見るんだよ私は
眼を閉じてしまえば何も見えないから
まだ生きることが諦めたわけじゃないから

そうさいつだって上向き
でもだからこそ言える事がある
自分に向き合うこともできるから

僕の世界全て

友情ってなんだろう

と君は問う

世界ってなんだろう

と僕に問う

僕は答につまってしまった

今本当に自信をもって教えられる事なんて無かったから

この僕の手が届く範囲が
今の僕の全て

だから君を抱き締めよう
なくさないよう
力強く

愛情ってなんだろう
と君は問う
世界ってなんだろう
と僕に問う

僕は答に躓いてしまった

今本当に胸を張って理解できている事なんて知らなかったから

この僕の眼で見える範囲が今全ての世界

だから君を見つめよう

見失わないよう
しっかりと

理屈ン

肺をめいっばい膨らませ
叫んだ

世界をぐるりと一周した
山びこ

意識が朦朧とした
でもそれじゃあ心は晴れなくて
切なく空を見上げてみたり

言の葉にはそれぞれ裏がある
めくらなければ幸せなのに
なぜ人は知りたがるのか

表だけ綺麗だからさ
大好きだった君も 大嫌いなアイツも
矛盾ばつかじやないかって

前だけを見てたからさ
大好きだった夢も 大嫌いな自分も
本当なんかないんじゃないかって

引力の中心はどこ？
まっすぐ地面掘ってブラジルに行こう
頭からまっすぐ宇宙か
それとも人類初浮かんでみるのか

やってみようぜ

地球を飛び出した人類よ
穴一つどつてことねえよな
ハゲろよおっさん

めをあけて

静かな夜

聖夜ってわけじゃない

都会では星も負けてしまう

月だって

そんなに強いわけじゃない

ずっと前からそばにいて

ちよつと地味だから

誰の気にも留められなくて

それこそ認めてもらえなくて

寂しかったんだよね

こつちへおいで

大丈夫だよ

ここには誰もいないから

煩い朝

賑やかかってわけじゃない

雨なら青空は負けてしまう

陽だって

そんなに強いわけじゃない

最後の最初もそこにいて

みんな惹きつけて

疲れてるのに笑ってみたり

休むことさえ許されず

泣きたかったんだよね

信じていいよ

そばにいるから

今なら二人ぼっちだから

てを繋ごう

一緒に輝こう

今ならできる気がするんだ

きっと虹はかかるから

いやかけてみせるから

そしたらねえ、

唄っておくれ

もういちどあの声で

笑っておくれ

いつかのあの日のように

まずはここから

自分のこと

嫌いになつてしまったのかい？

どこかに

置き忘れてきてしまったのかい？

そうか

それなら僕から

僕の君を

大好きな君を

プレゼントするよ

人を愛したい

自分が憎いからなのかい？

うなずかないのかい

そんなに急ぐこともない

手のひらにのった

桜の花びら

人を好きになりたいのなら

まずは自分を好きにならなくちゃ

明確な数はいらない

そんなのしらなくていい

悟ることさえ

許されないなら

そんなの考えなくていい

いつか

それでも

いつか

いつか

愛しい人ができたなら

それは一生

大切にできるものだよ

それを解って解らない

その気持ちだつて

わすれちゃだめだよ

またいつか

伝えるから

僕が大人になれば

それまでずっと居てくれたなら

僕の宝物を

君にあげよう

君にあげよう

指切りン

風を切る

きもちいい朝七時

私をのせた赤い自転車

歩道をはしる　　今をはしる

わからないもの

時にはそのままでもいいさ

いつか時がかいけつしてくれるものもあるから

いつか絶対と小指を結んだよね

あの丘の夕日を忘れることはないよ

大好きだよ

大好きだよ

空をあおぐ

すがすがしい空色

君が見せた純な笑顔

心が脈打つ　　頬が染まる

切ない心

時には思い出すといい

それはいつか私を光らせることになるから

きっと会おうと誓いを交わしあったね

その微笑みを思い出にすることはないよ

ありがとう
ありがとう

やきもち

自分が自分の好きな物

知っているとなんかうれしい

自分だけのような気がする

その物を知っているのは

でも

同時に誰かに知ってほしい

そんな思いが募る募る

どうしたものか

知ってほしい

自分の好きな物

誰かに知ってほしい

けどさ

誰かが知っちゃったら

自分だけのものじゃ無くなるでしょ

それはやだよ

ずっと繰り返す

矛盾だ。

もやもやするなあ。

私って欲深い…

何がしたいの

わかんないや

両方好きだ

でも

両方嫌い

なんでだろう

ずるいなあ

なんでだろう

メルヘンKISS

朝が来るのが怖いのかい？

それならさ

ボクが少しだけ

時間に魔法をかけようか

おとぎ話のプリンセスと

その娘のための王子様

絶対結ばれるんだろう

ハッピーエンドなんだろう

今日はそんな話をしよう

朝焼けがボクらをみつけるまえに

どこか二人で逃げちまおう

遠いところへいつちまおう

ねえ、本気なんだよ

愛してる、愛してる

愛してる、愛してる

足りないんだよ

こんなの全然

これっぽっちも

足りないんだよ

今日が来るのが怖いのかい？

それならさ

ボクが少しだけ

君を抱きしめてみようかな

たくさんの姫達の中で
独りで失恋、人魚姫
一生叶わぬ恋だろう
バットエンドになるだろう
そんなボクらの話をしよう

神様がボクらを引き離す前に
どうか1 + 1を1に
誰にも侵せないように
ねえ、正気なんだよ

愛してる、愛してる
愛してる、愛してる
伝わらないよ
こんなの全く
半分だって
伝わらないよ

寂しさで寂しさを包み込んだら
確かにボクは変わったよ
誰にもわたさないように
君を確かめるように

愛してる、愛してる
愛してる、愛してる
切なすぎるよ
こんなのどうせ
君は知らない
切なすぎるよ

愛してる、愛してる
愛してる、愛してる
愛してる、愛してる...

愛してる

憎みたい、憎めない

夢は人の理想です

でも

理想は夢とは違います

じゃあいったい何だと君はいうの

子供な僕をおいてかないで

走れば見つかるものじゃない

隠せばなくなるものじゃない

喪失したいコレをどうすればいいの？

ねえ、ねえ、ねえ、

覚醒した瞬間

繰り返されるフラッシュバック

君のおかげで皮肉にも僕は

ループループエンドレス

希望は人の願いです

けど

願いは希望じゃありません

それなら何だと君は思うの

僕を迷子にしないでよ

待ってもわかるものじゃない

すてりやいってこともない

僕が愛したいコレに何をすればいいの？

ねえ、ねえ、ねえ、

魅せられた瞬間

終始の見えないメビウスの環

僕の中で皮肉にも君は

エコーエコーエンドレス

どどどどんどんと

遠くにいつてしまう

ととととんとんと

簡単に近づくんだ

猫のように

狐のように

蝶のように

ココからどこへ？

僕を誘惑して

僕を狂わせて

すべて忘れて僕を想って

すべて受けとめるからさ

抱きしめるにはどうすればいいの？

ねえ、ねえ、ねえ…

ねえ！

HAPPY LUCKY BIRTHDAY (ハッピーラッキーバースデー)

今日君はお誕生日

またその年最後の一日を送るんだね

そんな君にHAPPY BIRTHDAY

お誕生日おめでとう

BIRTHDAYにHAPPYがついているのは

君が生まれてきたというBIRTHDAYに

君が生まれてきたというHAPPY、幸せがあったから

ありがとう、君が生まれてきた幸せに

おめでとう、君がうまれてきたこの日に

今日君はお誕生日

またその年最後の夜を迎えるんだね

そんな君にLUCKY BIRTHDAY

お誕生日おめでとう

BIRTHDAYにLUCKYをつけたのは

君が生きてきたBIRTHDAY

君が生きてこれたというLUCKY、幸運があったから

おめでとう君が生きてきた幸せに

ありがとう君が生きてきたこの日に

でも、発想の転換によれば

また歳をとっていくんだけど

何喜んでんだってことなんだけど

それよりも大きい強い生まれてきたという喜びが

H A P P Y、L U C K Y、B I R T H D A Y

H A P P Y、B I R T H D A Y、L U C K Y、B I R T H D A Y…

L U C K Y、

(H A P P Y)

B I R T H D A Y

いいわけ

アナタと私の笑顔が飾る
ケータイの画面を

もう何度確かめただろう

時間でごまかされたふたりの
ふたりの気持ちは
もう何度もすれ違っていた

近すぎて見えなさすぎたの？
遠すぎて見え過ぎていたの？
それでも桜は

ああ私をおいて…

あの時笑っていればよかったの
私がアナタを見てさえいれば
振り返ってさえいれば
振り返ってさえいれば

未来は変わっていたんだよね

後悔ばかりだよ

あの時怒っていなけりゃよかったの
私がアナタを捕まえていれば
強がらずにさえいれば
強がらずにさえいれば

今日はかわっていたんだね

感謝ばかりだよ

ひとりっぺいいな

ひとりっぺいいな

ひとりっぺいいな

何でもできちゃうしいゝ

ひとりっぺいいな

ひとりっぺいいな

かんでもできちゃうしいゝ

オナラでもいいしさ

鼻だっぺほじくれる

ほら人を気にせず気にされず

自分をさらけだしちやいなよ

ひとりっぺいいな

ひとりっぺいいな

アレだっぺできちゃうしいゝ

ひとりっぺいいな

ひとりっぺいいな

コレだっぺできちゃうしいゝ

妄想やっぺもいいしさ

キモくたっぺOK

ほら人を考えず考えられず

自分をあばきだしちやえよ

ひとりっぺいいな

ひとりっていいな

ニヤリとだつてできちゃうしいゝ

ひとりっていいな

ひとりっていいな

すなおにだつてなれちゃうしいゝ

だけど

独りは寂しいな

独りは寂しいな

君がいてくれてホントによかったよ

みんなっていいな

強さ

僕は他人を征服したくて
君の心を知ろうとしたよ

僕は君より強くなりたくて
他人の価値を知ろうとしたよ

だからさ

泣いてる人を鼻で笑って
笑う君を罵って

笑う人を憎み睨み
泣いてる君を嘲笑い

はつけよい
のこったのこった

さあ最後に残ったのはだあれ
最後に涙を飲み込んだ君は
どれ程の強さをもっていただろう

まあ最初に残ったのはだあれ
最初に笑いを漏らした僕は

どれ程の弱さをもっていただろう

どれ程の

いったい

どれ程の

君は

僕は

はっけよい
のこったのこった

ああいつも泣いてるのはだあれ
そういつも笑ってるのはだあれ

それは誰だけ？

どれだけ

それだけ…

シャンプー、水で薄めればもう一回くらいなら使えるよ、希望ヶ丘

なあ、僕らはさ

長生きとか言うけどね

結局シャンプーみたいな人生なんだよ

不幸を薄く

とつても薄く

引き伸ばして引き延ばして

生まれもつて来たものを

ただただ…

丘の上に立つたら

飛び込んできた

真っ青な天井

手が届きそうで届かないけど

自分も染まりきれぬ気がした

ねえ、僕らはさ

恵まれてるって言うけどさ

いったいどの辺基準なのかい？

教えてよ

幸せを薄く

ひたすら薄く

それをみんなで分かち合って

溢れかえるものを

ただただ

丘の上に立つたら

飛び越えてきた夕焼け

追い付けそうで追い越せないけど
手を伸ばせば掴める気がした

なんでこんなに苦しくなるの

厄介だけど大切なもの

ああもう

家になんて帰りたくないな

丘の上に寝転んだら

被さってきた光たち

ありがとうって言ってみたらさ
流れたあいつはニコッて笑った

僕のお願い叶うかな

救出の唄

冷たい壁のむこうから
僕の名を叫ぶ声がした

目に見える君はいつものように
笑っているけどそこから

僕の名を叫ぶ音がした

この壁は氷だから
僕の温度で
溶かしきれるはずさ

だから叫んで消えてしまうまで
君の声だけが
僕を強くする

囲んだ壁の外から
私の名を唄う声がした

鏡に映る私はいつものように
笑えているけどなんでか

雫の落ちる音が響いた

アナタが助けしてくれるなら
私の全てをかけて
愛していけるはずなの

だから唄って出会う時まで
アナタの唄だけが
私を素直にさせる

やっとあいた小さな穴から
ふたりは出会えた
もうひとりばつちじゃないよ
僕も君も私もアナタも

残った氷はかき氷にして
食べてしまおうと
ふたりで笑った

バランス

バランス

ばっちりバランス

抜群バランス

憂いも

怒りも

福も

含もう

そんな涙も拭いてしまおう

これでとれる

バランス

ばっちりバランス

抜群バランス

何も知らない

何も伝えない

だからなんにも

変わらない

すべて？全て、

それなら凡て

で、総てを統べて

滑って転んで

諦めないで

捨ててしまえば楽になるから

自分の都合に邪魔する悪は
棄てちゃいましょう
殺しちゃいましょう

そうしてとるのよ
世界のバランス
みんなのバランス
自分のバランス

洗脳された
みんなされた
そしてとられた
ばっちりバランス

抜群バランス

三輪車と虹と何かと…最後に糞な世界と

納得のいかない言葉で
敗けを認めさせられて
された期待にも応えられず
なにもできないわけでもなくて

ああもう

泣かせておくれよ
今日はセンチメンタル
鳴かせておくれよ
綺麗な声が欲しいんだ

なかせて
好きなだけ
潰れてしまうまで

嫌いな世界だから
目を瞑っても気持ち悪くて
三輪車なんかどこかへ捨ててきた
虹はみることもなくなった

ああもう

代わっておくれよ
そしたらわかるから
変わっておくれよ
頼みはしないけど

かわって

好きなだけ

壊れてしまうまで

嫌いだと言っには

何もかも知らなきゃいけないくて

好きだと言っには

何もかも忘れなきゃいけないくて

これっぽちのこんなヤツに

何を選べと君は求めるのかい？

花名（はな）

縁側に座った俺

お茶持ってくるお前

ふたりで座って

無駄に広い庭を眺めた

景色はこの前まで

どうでもよかった物だった

お前が来るまで

離れていくと知ってしまうまで

埋もれよう

お前との思い出は

名前をつけよう

たくさんの花達に

昨日知ったそのこと

去っていくのは明後日だと
あさって

昨日聞いた事だから

いなくなるのは明日だよな

預けよう

俺の全てを

名前をつけよう

たくさんのお前達に

何も言えないまま

口下手な俺だから

最後に種と気持ちと雲だけ握らされた

育てよう

新たな今を

名前をつけよう

この花に

この想いに

そして俺も

花になろう

そしてお前に

名前をもらおう

唄詞（かし）

僕は勝たなきゃいけないんだ
そう思い込まされ生きてきた
誰のために誰が言っただのかは知らない
ただそう洗脳されてきた

ろくな言葉も
大層な音も
残念なことに
持ち合わせちゃいない

そんな意気地無しの僕が
唄う心を
聞いてほしい人がいる
受け止めてほしい人がいる

僕は遅れてちゃダメなんだ
そう走らされてここにきた
何のために何をするかはすでに忘れた
あとはもうなすすべもない

ろくな未来も
大層な願いも
残念なことに
みつけれちゃいない

そんなろくでなしの僕が
唄うたよりを

聞いてくれる人がいる
受け止めてくれる人がいる

僕でいいじゃない
僕がいい

そんな人がいる

待っててくれる人がいる

そんな優しすぎる人を

世界の中心で

唄ってられる僕がいる
笑ってられる僕がいる

リセット

ねえ聞いて

私は気がついたの

ねえ見てよ

みんな傷ついてるの

自分で自分を痛めつけ

それを代償に私を追い詰める

「アナタが憎いのよ」

それはどっちの台詞なの？

嘘つき嘘つき最低なやつ

殴って蹴って正義感で自分を満たす

「裏切り者」なんて

君達みんな眼球無いの？

ねえ笑って

私は気がついたの

ねえ泣かせて

もう持たないって

何の根拠も無いものを

信じて私を無いものに

それで何を得られたの？

「ごめんなさい」なんて

簡単で残酷すぎてしまう

違う違う信じてよ

やめてやめて気づいてよ

助けて助けて誰か

叫んだ

声がかれても

泣き散らした

心が枯れても

ある日眞実は

いきなり明るみに出た

しかし時すでに遅し

修復不可能

壊れて

ボロボロで

消えそうで

壊れきっていた

でも、でも

まだ死んではいなかった

「もういちどやりなおす」

唇からカラカラの声が漏れた

「明日、この道を抜けたら、」

君達を殴りに行くから

「覚悟して」

嫌でも仲直りしてやるから

「それで君が私を」

直視できたら

「そしたら」

仲直り

「じゃあ」

またね

軽く笑つて

少女は眠つた

ひねくれもの

こんにちは

僕はひねくれものです
なんて

看板ひっさげて歩いてると思うか？

いや、あえて

僕はひねくれものだし
だから

大声で叫んで歩いてみてもいいかもな

ああ、信じてるよ

踏み台積みめば

星を抱き締められるって
雲を食べれるって

成功が見えてるものなんて
つまらないじゃん
かといって

失敗が見えてるものだって
おもしろくないけど

ああ、挑戦してるよ
庭を果てなく

真っ直ぐに掘ればきつと

朝と夜を夏と冬を会わせられるって

いいだろ？ダメなの？

ん？考えがおかしい？
わかってるよ

だって僕は
ひねくれものだもん

いったでしょ？

溜息

『目を閉じて、僕を愛して、抱きしめて』

ねえ

目を閉じてくれる？

僕を愛してくれる？

抱きしめてくれる？

そしたら

目を閉じてあげる

君を愛してあげる

抱きしめてあげる

祈ろう

君が眠れるよう

御伽噺をしてあげる

いい夢が見れるよう

素敵な歌を歌ってあげる

次の小鳥のさえずりで

君が目を開けた時

僕はここにいないけれど

消えはしないよ

だから

目を閉じて
僕を愛して
抱きしめて

『目をあけて、貴方を愛して、泣きだして』

目をあけて
貴方を愛して
泣きだして

抱きしめるつもりだったのに
貴方はいない

優しく歌う
貴方はいない

目をあけて
貴方を思つて
泣きだして

それでも消えない
貴方が消えない

答えを頂戴

努力をすればむくわれる
確かにそうだと思えるよ

ただ

力の入れ場所

入れ方を間違えたなら
スタートダッシュで転んでる

見えなくて
知らなくて

そのまま走った妄想をした

ピストルが鳴いたら
もう何も待ってくれはしない

手も上げて
脚がぶっ飛んで
地獄イッちゃう？
そうなの
そういうもののなの

今が嫌で
理想に漬かって
それに染まって
ダメなの
それは逃げなの

情けは人のためならず
確かにそうかもしれないよ

でも

情けのかけかた
使用法を知らないのなら
煙たがられてそれで終わり

心じゃなく
結果重視

盲目のまま肥える優越感

ニワトリが鳴いても
もうずっと起きられはしない

目えぐって
耳を切り落として
天国イツちゃう？
これなの
求める快感

今が好きで
自己に浸って
これに貢いで
悪なの
これは悪なの

息止めて

静に近づいてみて

意識は飛んで

本当に

わかってるから

悪なの？

これは悪なの？

ダメなの？

これは逃げなの？

you (前書き)

詩の掲示板あさってたら、
かつての自分の詩がでてきた (笑)

you

君はだあれ？

ねえ、僕じゃないなら君はだあれ？

となりで勝手に笑って泣いて

ねえ、なんとか言っ

you! hey! you?

白と黒のふたりの心

冷めてしまわないで どうか

その意味を教えて

君の名前は知らないよ

僕はだあれ？

ねえ、君じゃないなら僕はだあれ？

君の中の僕と 僕の中の僕と 同じ

僕っていうんだけど

ねえ、なんとか言っ

you! hey! you?

君の君と僕の君

おんなじ君なんだけど どうか

その意味を間違えないで

僕の名前を知ってる？

言葉じゃ足りないこの気持ち

辞書には載らないこの違い

覚えるために涙を流す

理由はないけど確信はあるから

you! hey! you?
それを知って、人を知ってyou

思いだし笑い

『フリーダム』

自由な時間で

自由な速度で

歩いていく

制限時間がある

この散歩

どこまでいけるのかは

知らない

だから自由

命という制限にしばられた
自由

自分と言う入れ物に閉じ込められた
自由

それを私たちは
自由とよぶ

『それはだれかのみぞしる』
だれが人生を
道と例えたのだろう

だれが私を

私と決めたのだろう

だれが君を

君だと名付けたのだろう

だれが始めを

見つけたのだろう

いつか終わりは

くるのだろうか

だれか私を

始まりの前に

つれて行って

思いだし笑い（後書き）

出発点と終点はいつも同じで。

きょうはさむかったね

お久しぶりです
相も変わらず私は
すべてに負けることのできるほど
平凡な凡人です

この前ぶりです
愛は変わらず貴方をも
激しく責め立てることができるほど
真っ直ぐ直進します

月と太陽は惹かれ合ってるというけど
月は地球の回りを廻ってる

近くに居すぎて知らなくて普通にだまされて
まるで私達みたいだね

どうかこの気持ち
伝わりますように

音となつて
熱となつて
大気圏をも突き抜けて
重力に逆らつて

どうかこの想い
届きますように

光となって
力となって

非常識をもす通りして
歴史に逆らって

P S、追伸です
今日も変わらず私は
何かに震えて過ごしています
あなたに会いたい

たとえばそう

ここに林檎が一個あるとして
君と僕

お腹が空いてたら
それをどうする

それと同じこと
今、どうしたいか

僕は君の手に熟れた林檎を渡そう

誰かに何かをしてもらうと安心する
自分はいるんだって

そんなもの
自分なんて
存在なんて

死ぬ日がわかってたって
人生なんて
夏休みの宿題を
片付けるようなもの

だらだら生きる
だらだら過ごす

自分が最強にはなりたくない
だって上がいれば孤独じゃない

だから最強っていいんじゃないか
ちっちゃい最強

猿山の大將

僕は勝負する

今布団から起き上がる

僕は勝つ

負けることはない

負けるケンカは

買わないから

たとえばそう

君に渡した林檎に

毒が入っていることを

僕が知っていたら？

想像↓妄想↓創造

カップに入った紅茶の量で
誰が淹れたかわかるほど
通いつめた喫茶店
誰かが私を狙ってる

溢れ返る個人情報
監視されてる気分だわ
誰も見ないで
私を見ないで

殺気で満ちてる店内で
穏やかなバイオリンがほえむ
私を誰かが狙ってる

数えきれない心当たり
監禁されてる気分だわ
誰も見ないで
私を見ないで

私が触ったコーヒークップ
私が読んだこの雑誌
私を誰かが狙ってる

誰も見ないで
私を見ないで
私は誰かに狙われている

誰も見ないで
私を見ないで
私は誰かに狙われている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0156n/>

ヒヨコの詩集

2012年1月4日20時45分発行